

週刊 タバコの正体

タバコは有害なのに“売れる商品”です。前回紹介したように、コンビニの売り上げの26%も占めているのですから、タバコなしでは経営が苦しくなるかもしれません。日本たばこ協会の発表によると昨年(平成25年度)1年間の全国の販売本数は1969億本だったそうです。1箱20本だとすると約100億箱です。これを365日で割って1日当たりになると、毎日約2700万箱も売れている訳です



さて、上の写真はオーストラリアのタバコです。タバコは売れない方がよい事は世界の常識なので、オーストラリアでは、タバコの銘柄に関係なく、「タバコは有害」である警告画像が入ったこのデザインでなければ販売できません。しかも一箱1000円以上もします。

一方、左下の図は日本のタバコのデザインの決まりで、実物は右下の写真のとおりです。しかも一箱410円です。一見して「タバコは有害」だとはとても思えません。タバコは“売れる商品”だから、これで良いのでしょうか。

世界の潮流から見れば、「日本は国自体が、タバコに依存している」と思われていないでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久



(成分の表示 一従来からある表示)

タール ○○mg
ニコチン ○.○mg

(注意文書)

たばこの煙は、あなたの周りの人、特に乳幼児、子供、お年寄りなどの健康に悪影響を及ぼします。喫煙の際には、周りの人の迷惑にならないように注意しましょう。

(裏面)

(注意文書)

喫煙は、あなたにとって肺がんの原因の一つとなります。疫学的な推計によると、喫煙者は肺がんにより死亡する危険性が非喫煙者に比べて約2倍から4倍高くなります。(詳細については、厚生労働省のホーム・ページ www.mhlw.go.jp/topics/tobacco/main.html をご覧ください。)

